



おまえぎの きらり輝く人



日本の誇りをアフリカ大陸へ伝える

# みずの 水野の 勝二 かつじ さん



## PROFILE

みずの・かつじ (60：上朝比奈)

電気設備業を営む。自動制御装置や電気装置などが専門でアメリカでも関連する仕事に従事した経験を持つ。

## ザンビア共和国へ

「60歳を間近に迎え、自分が今までやってきたことで、何か人の役に立てればと思っていたんです」

独立行政法人国際協力機構（JICA）のシニアボランティアとして、アフリカ大陸ザンビア共和国へ派遣されていた水野勝二さん。2年間の活動を終え3月22日に無事帰郷した。JICAは日本の政府開発援助予算で実施される事業。開発途上国からの要請に基づき、各分野で技術や知識、経験を兼ね備え「現地の役に立ちたい」と志す人を募集し派遣している。派遣期間は原則2年間。これまでに3万4千人を超える人たちが参加している。

## 世界の役に立つ

「応募したきっかけは、偶然妻が新聞に掲載されていたJICAの記事を見たことからなんです」。子どものころから世界に興味を持ち、20歳から仕事やプライベートを含めて42カ国に足を運んだことが

あった水野さん。「もともと海外に興味があったことと、職業とする機械やプログラムなどの設計は日本の一番誇れる分野であり、その仕事に従事する自分が、世界の困っている人たちのために、役に立てればと思っただけです」と応募動機を話す。

## 異文化を伝えたい

応募後は2回の試験をパスした後、2カ月間の研修を経て現地入りした。現地では、首都ルサカにある職業訓練センターの電気設備関連コースで、生徒と同僚講師に熱弁を振るった。「私が帰国後も、授業が続けられるよう、指導は生徒よりも講師たちが主で、生徒を含めて約30人に自動制御の指導をしてきました。言葉、文化、習慣など全てが違う海外での活動は、自分自身も大変勉強になり、今後の人生や仕事にも大いに役立つのではないかと思います。機会があればアフリカの素晴らしいことや現地での生活で感じたことなどを大勢の人に伝えたいです」と今後の活動にも意欲をみせた。